

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年11月14日 (2013.11.14)

【公表番号】特表2013-506437(P2013-506437A)

【公表日】平成25年2月28日 (2013.2.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-010

【出願番号】特願2012-533282(P2012-533282)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 31/10 (2006.01)

A 6 1 P 33/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/59 (2006.01)

A 6 1 K 38/27 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 31/10

A 6 1 P 33/00

A 6 1 K 31/59

A 6 1 K 37/36

A 6 1 K 37/02

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月27日 (2013.9.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 の核酸及び第 2 の核酸を含むベクターであって、該第 1 の核酸がトール様受容体をコードし、該第 2 の核酸がトール様受容体作動物質をコードする、ベクター。

【請求項 2】

前記トール様受容体作動物質がフラジェリンである、請求項 1 に記載のベクター。

【請求項 3】

前記ベクターが発現ベクターである、請求項 1 に記載のベクター。

【請求項 4】

前記ベクターがほ乳動物発現ベクターである、請求項 3 に記載のベクター。

【請求項 5】

前記ベクターがアデノウイルス、レンチウイルス又はリボソームから発現される、請求項 3 に記載のベクター。

【請求項 6】

前記第 1 の核酸が分泌型のツール様受容体である、請求項 1 に記載のベクター。

【請求項 7】

前記フラジェリンが分泌型のフラジェリンである、請求項 2 に記載のベクター。

【請求項 8】

前記分泌型のフラジェリンが、図 8 に示される TLR5 活性に重要であり得るフラジェリンの 13 種類の保存されたアミノ酸を含む、請求項 7 に記載のベクター。

【請求項 9】

前記ツール様受容体が TLR-5 である、請求項 1 に記載のベクター。

【請求項 10】

前記第 1 の核酸が図 9 に示す配列を含み、前記第 2 の核酸が図 7 に示す配列を含む、請求項 1 に記載のベクター。

【請求項 11】

ほ乳動物においてがんを処置するための、請求項 1 に記載のベクターを含む薬剤。

【請求項 12】

前記がんが腫瘍である、請求項 11 に記載の薬剤。

【請求項 13】

前記腫瘍が、前立腺、乳房、結腸、食道、胃、肺、すい臓、腎臓、甲状腺、卵巣、咽頭又は頸部からなる群に由来する、請求項 12 に記載の薬剤。

【請求項 14】

前記腫瘍が肉腫、黒色腫、白血病及びリンパ腫からなる群に由来する、請求項 12 に記載の薬剤。

【請求項 15】

前記薬剤が前記ほ乳動物の前記腫瘍からトランスで (in trans) 投与されるものである、請求項 12 に記載の薬剤。

【請求項 16】

前記薬剤が前記ほ乳動物の腫瘍に直接投与されるものである、請求項 12 に記載の薬剤。

【請求項 17】

前記薬剤が免疫賦活薬と組み合わせて投与されるものである、請求項 11 に記載の薬剤。

【請求項 18】

前記免疫賦活薬が、成長ホルモン、プロラクチン及びビタミン D からなる群から選択される、請求項 11 に記載の薬剤。

【請求項 19】

前記成長ホルモンがソマトトロピンである、請求項 18 に記載の薬剤。

【請求項 20】

前記薬剤がサイトカインと組み合わせて投与されるものである、請求項 11 に記載の薬剤。

【請求項 21】

前記サイトカインが幹細胞因子である、請求項 20 に記載の薬剤。

【請求項 22】

ほ乳動物において感染症を処置するための、請求項 1 に記載のベクターを含む薬剤。

【請求項 23】

前記感染症がウイルス、細菌、寄生原虫及び真菌からなる群から選択される生物体によ

るものである、請求項 22 に記載の薬剤。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、ほ乳動物における感染症を処置する方法であって、それを必要とするほ乳動物に第 1 及び第 2 の核酸を含むベクターを含む薬剤の薬剤を投与することを含む、方法も対象とする。第 1 の核酸はトール様受容体をコードし、第 2 の核酸はトール様受容体作動物質をコードする。がんは腫瘍であり得る。感染症は、ウイルス、細菌、寄生原虫及び真菌からなる群に由来し得る。

本発明は、例えば以下の項目を提供する。

(項目 1)

第 1 の核酸及び第 2 の核酸を含むベクターであって、該第 1 の核酸がトール様受容体をコードし、該第 2 の核酸がトール様受容体作動物質をコードする、ベクター。

(項目 2)

前記トール様受容体作動物質がフラジェリンである、項目 1 に記載のベクター。

(項目 3)

前記ベクターが発現ベクターである、項目 1 に記載のベクター。

(項目 4)

前記ベクターがほ乳動物発現ベクターである、項目 3 に記載のベクター。

(項目 5)

前記ベクターがアデノウイルス、レンチウイルス又はリボソームから発現される、項目 3 に記載のベクター。

(項目 6)

前記第 1 の核酸が分泌型のトール様受容体である、項目 1 に記載のベクター。

(項目 7)

前記フラジェリンが分泌型のフラジェリンである、項目 2 に記載のベクター。

(項目 8)

前記分泌型のフラジェリンが、図 5 に示される TLR5 活性に重要であり得るフラジェリンの 13 種類の保存されたアミノ酸を含む、項目 7 に記載のベクター。

(項目 9)

前記トール様受容体が TLR-5 である、項目 1 に記載のベクター。

(項目 10)

前記第 1 の核酸が図 7 に示す配列を含み、前記第 2 の核酸が図 9 に示す配列を含む、項目 1 に記載のベクター。

(項目 11)

ほ乳動物におけるがんを処置する方法であって、がんの処置を必要とするほ乳動物に項目 1 に記載のベクターを含む薬剤を投与する工程を含む、方法。

(項目 12)

前記がんが腫瘍である、項目 11 に記載の方法。

(項目 13)

前記腫瘍が、前立腺、乳房、結腸、食道、胃、肺、すい臓、腎臓、甲状腺、卵巣、咽頭又は頸部からなる群に由来する、項目 12 に記載の方法。

(項目 14)

前記腫瘍が肉腫、黒色腫、白血病及びリンパ腫からなる群に由来する、項目 12 に記載の方法。

(項目 15)

前記薬剤が前記ほ乳動物の前記腫瘍からトランスで (i n t r a n s) 投与される、
項目 1 2 に記載の方法。

(項目 1 6)

前記薬剤が前記ほ乳動物の腫瘍に直接投与される、項目 1 2 に記載の方法。

(項目 1 7)

前記薬剤が免疫賦活薬と組み合わせて投与される、項目 1 1 に記載の方法。

(項目 1 8)

前記免疫賦活薬が、成長ホルモン、プロラクチン及びビタミン D からなる群から選択される、項目 1 1 に記載の方法。

(項目 1 9)

前記成長ホルモンがソマトトロピンである、項目 1 8 に記載の方法。

(項目 2 0)

前記薬剤がサイトカインと組み合わせて投与される、項目 1 1 に記載の方法。

(項目 2 1)

前記サイトカインが幹細胞因子である、項目 2 0 に記載の方法。

(項目 2 2)

ほ乳動物における感染症を処置する方法であって、感染症の処置を必要とするほ乳動物
に項目 1 に記載のベクターを含む薬剤を投与する工程を含む、方法。

(項目 2 3)

前記感染症がウイルス、細菌、寄生原虫及び真菌からなる群から選択される生物体によ
るものである、項目 2 2 に記載の方法。